

藤沢市
市民活動に関するアンケート調査

報告書（概要版）

2022 年（令和 4 年） 1 月

藤沢市

これは、令和3年度に実施した、「市民活動に関するアンケート調査」の概要報告書です。この結果は、藤沢市市民活動推進計画（令和元年度～令和7年度）における市民活動促進の施策について、今後のあり方を検討するうえで、貴重な資料として活用させていただきます。

調査の概要		
調査の 設計	◆調査対象	市内に住所のある満15歳以上の市民
	◆対象者数	3,500名
	◆標本抽出	無作為抽出
	◆調査方法	郵送による配布・回収方式
	◆調査期間	令和3年11月8日（月）～12月8日（水）
	◆有効回収数	1,487件 ※調査期間終了後12月20日（月）までの回収分を含む。
	◆有効回収率	42.5%
調査 項目	●地域活動について	
	●市民活動について	
	●ボランティア活動について	
	●寄付について	
	●その他	

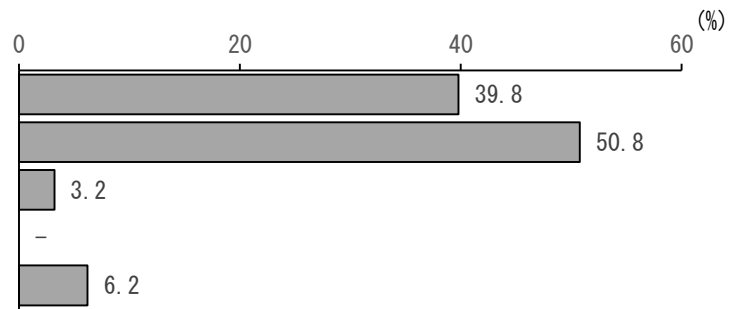
※本文、図表中に用いられる「n」は回答者数であり、グラフの数値はすべて回答者数を基数とした比率（%）です。少数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

複数回答では、%の合計が100%を超える場合があります。

基本属性

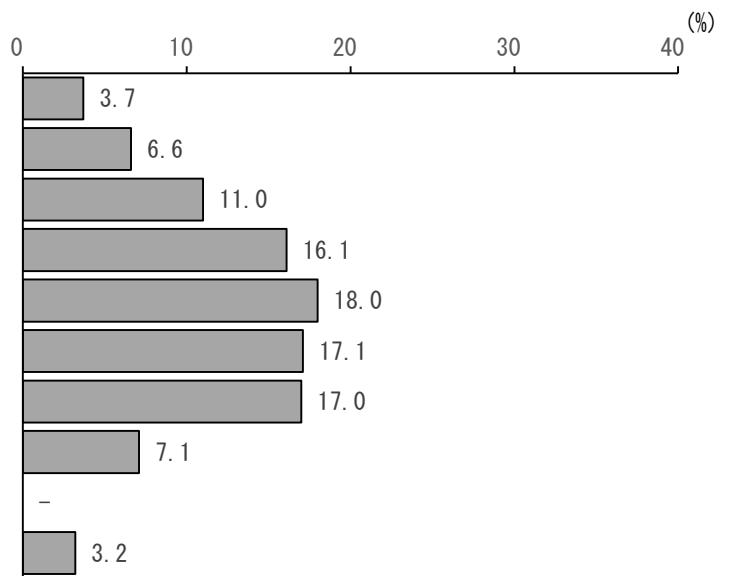
(1) 性別

	基数	構成比
男	592	39.8%
女	755	50.8%
回答しない	48	3.2%
不明	0	0.0%
無回答	92	6.2%
全 体	1,487	100.0%



(2) 年齢

	基数	構成比
10 歳代	55	3.7%
20 歳代	98	6.6%
30 歳代	164	11.0%
40 歳代	240	16.1%
50 歳代	268	18.0%
60 歳代	255	17.1%
70 歳代	253	17.0%
80 歳以上	106	7.1%
不明	0	0.0%
無回答	48	3.2%
全 体	1,487	100.0%

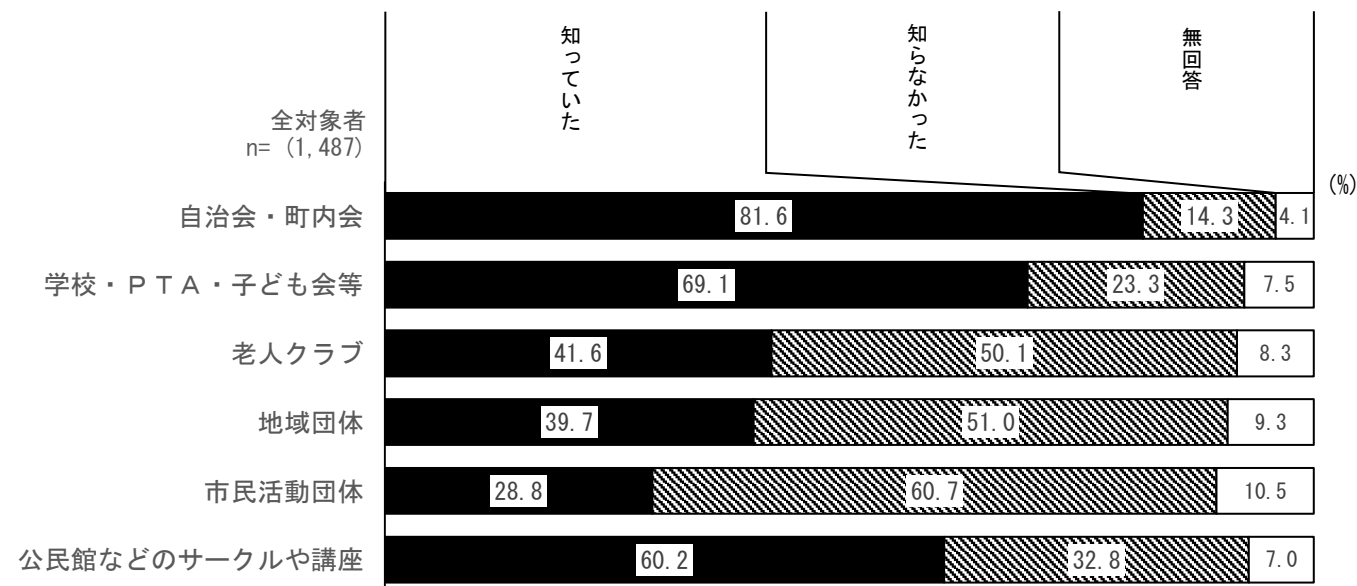


1 地域活動について

地域活動の周知状況

地域活動の周知状況について、「知っていた」割合は「自治会・町内会」が81.6%と最も高く、次いで、「学校・PTA・子ども会等」(69.1%)、「公民館などのサークルや講座」(60.2%)の順となっています。

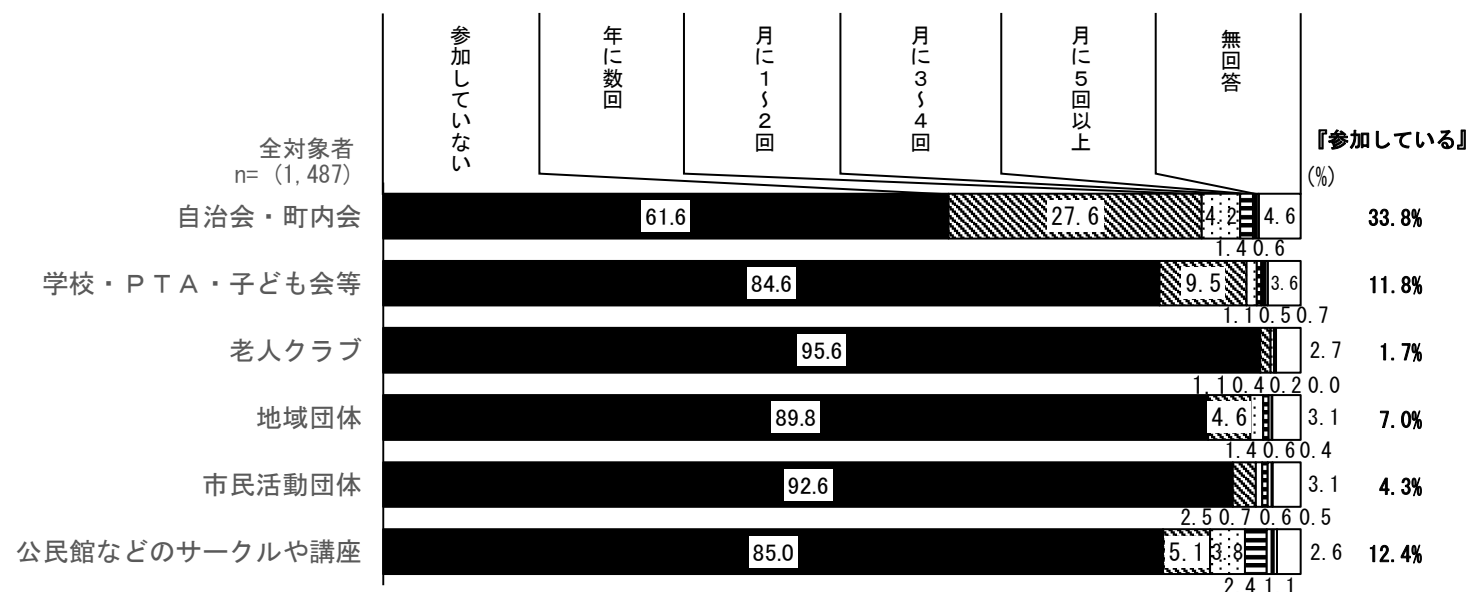
一方、「市民活動団体」については60.7%が「知らなかった」とし、「老人クラブ」(50.1%)、「地域団体」(51.0%)も、「知らなかった」が5割を超えています。



地域活動への参加頻度

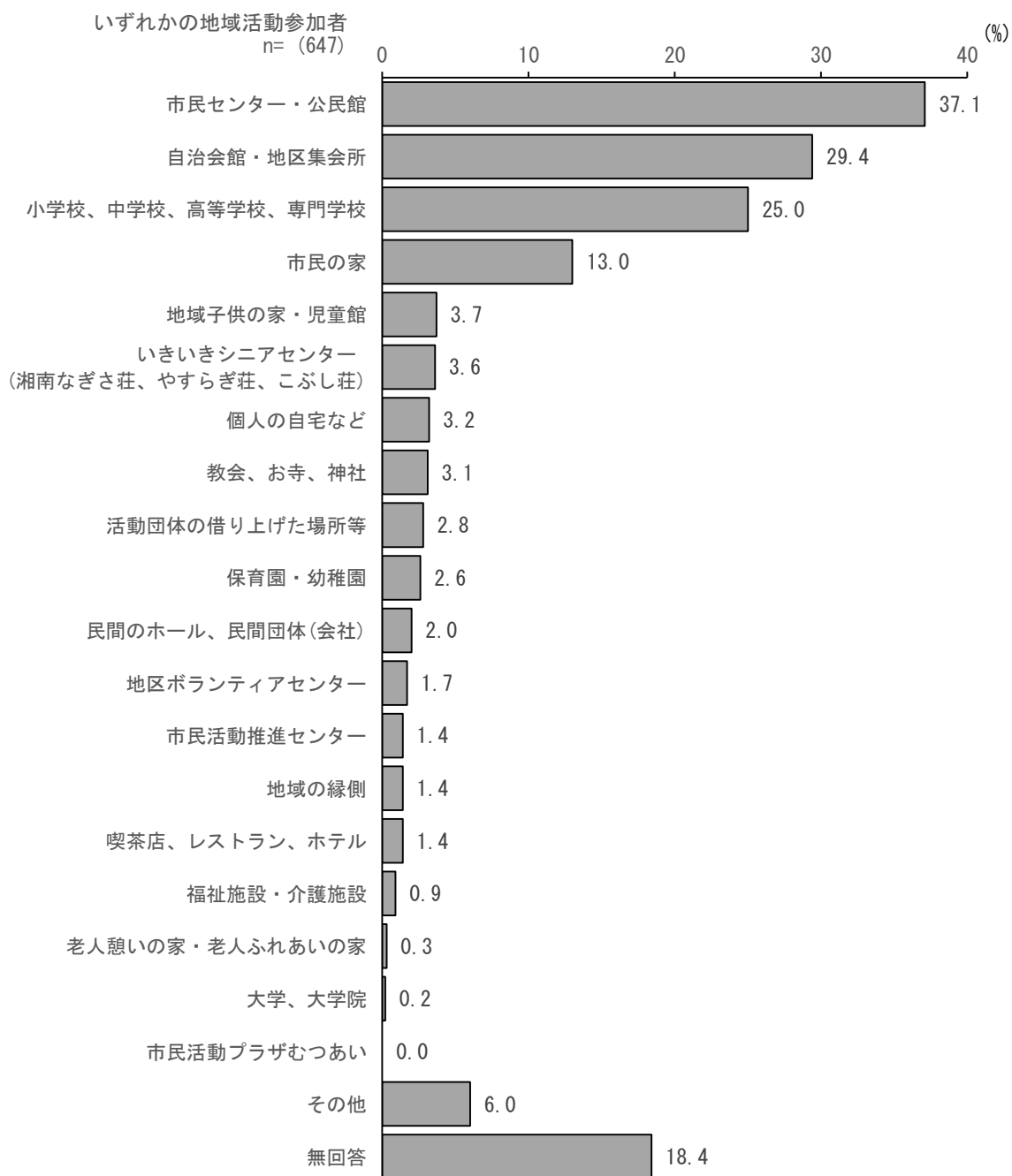
地域活動への参加状況について、「月に5回以上」「月に3~4回」「月に1~2回」「年に数回」を合わせた『参加している』層の割合は「自治会・町内会」が33.8%で最も高いものの、「参加していない」は6割を超えています。

それ以外の活動について、『参加している』層の割合が最も高いのは「公民館などのサークルや講座」(12.4%)で、次いで「学校・PTA・子ども会等」(11.8%)、「地域団体」(7.0%)、「市民活動団体」(4.3%)、「老人クラブ」(1.7%)の順となっています。



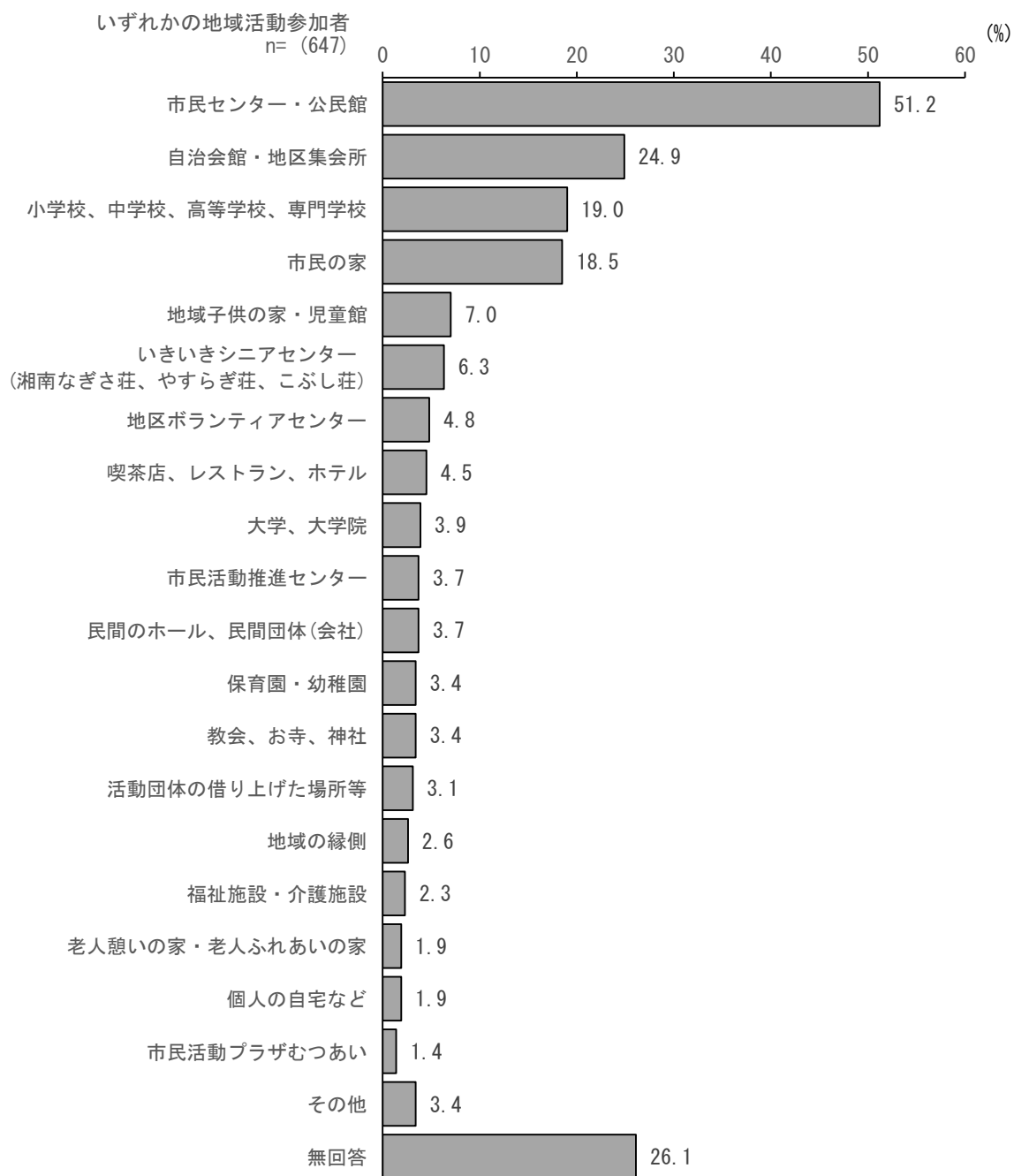
地域活動を行う場として利用している施設

地域活動を行う場としては「市民センター・公民館」を利用している割合が37.1%と最も高く、次いで「自治会館・地区集会所」(29.4%)、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」(25.0%)、「市民の家」(13.0%)の順となっています。



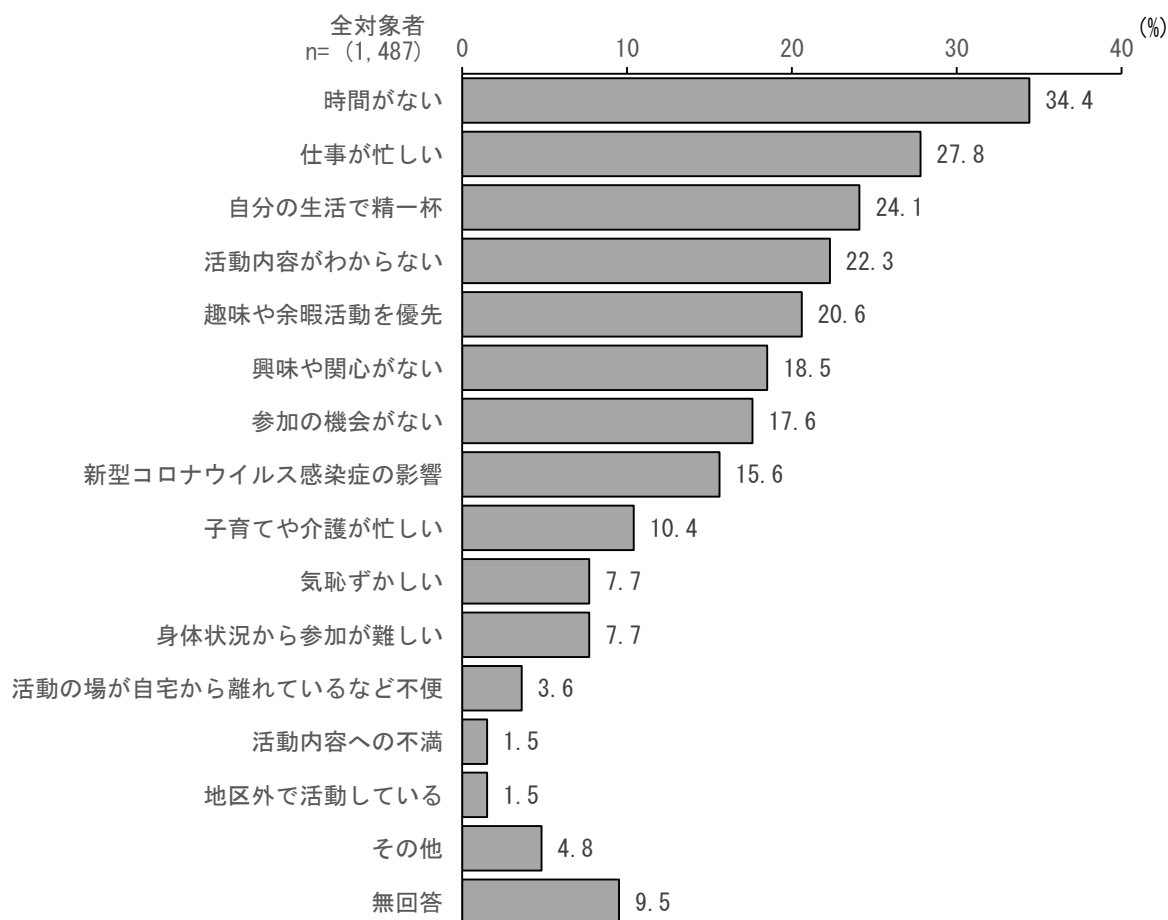
地域活動を行う場として今後利用したい施設

地域活動を行う場として今後利用したい施設については、「市民センター・公民館」を挙げる割合が51.2%と最も高く、次いで「自治会館・地区集会所」(24.9%)、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」(19.0%)、「市民の家」(18.5%)の順となっています。



地域活動に参加することに妨げとなること

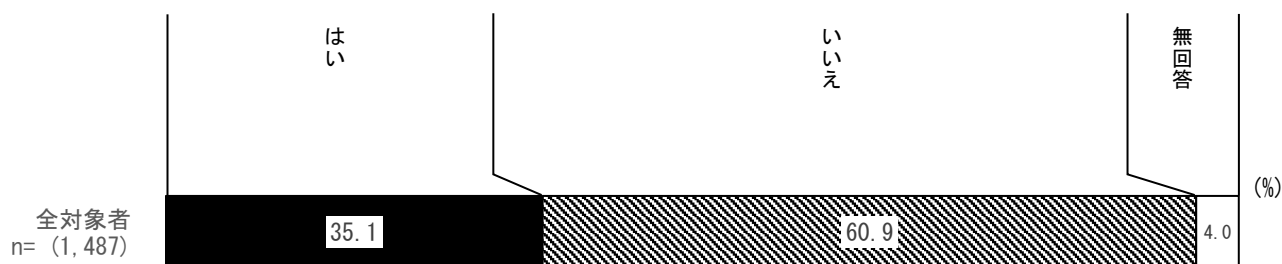
地域活動に参加することに妨げとなることについては、「時間がない」が34.4%と最も高く、次いで、「仕事が忙しい」(27.8%)、「自分の生活で精一杯」(24.1%)、「活動内容がわからない」(22.3%)、「趣味や余暇活動を優先」(20.6%)の順となっています。



2 市民活動について

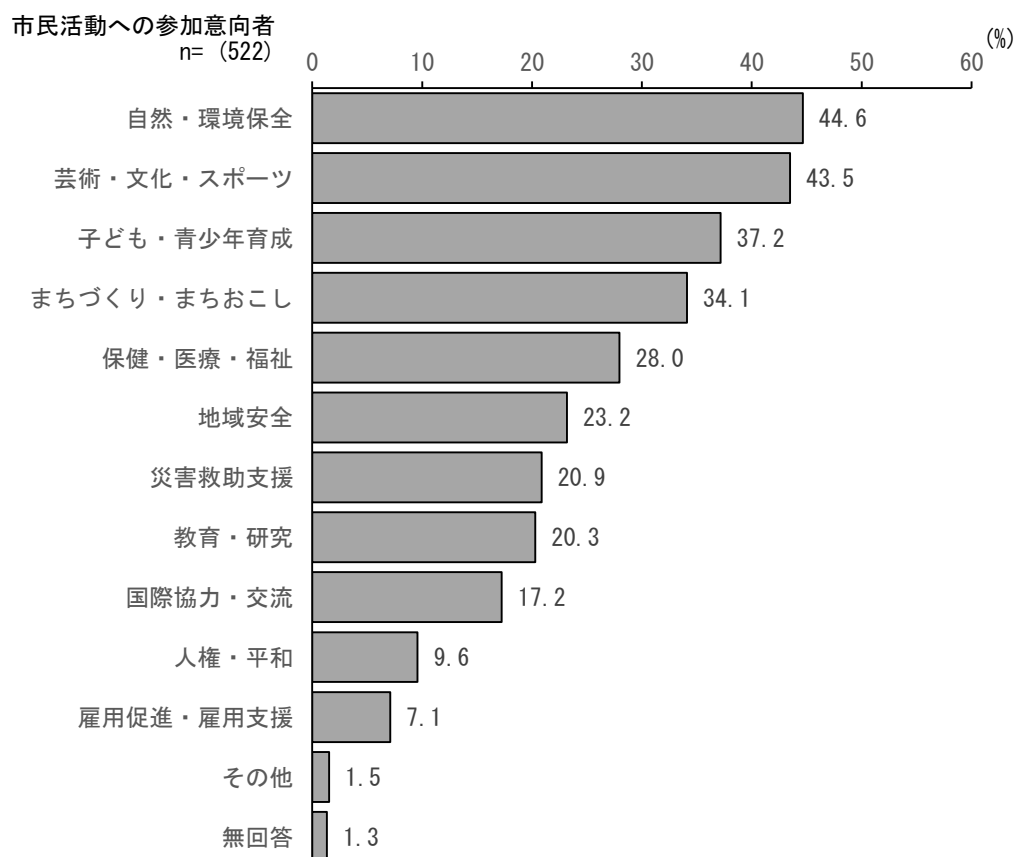
市民活動への参加意向

市民活動への参加意向については、「はい」が35.1%、「いいえ」が60.9%となっています。



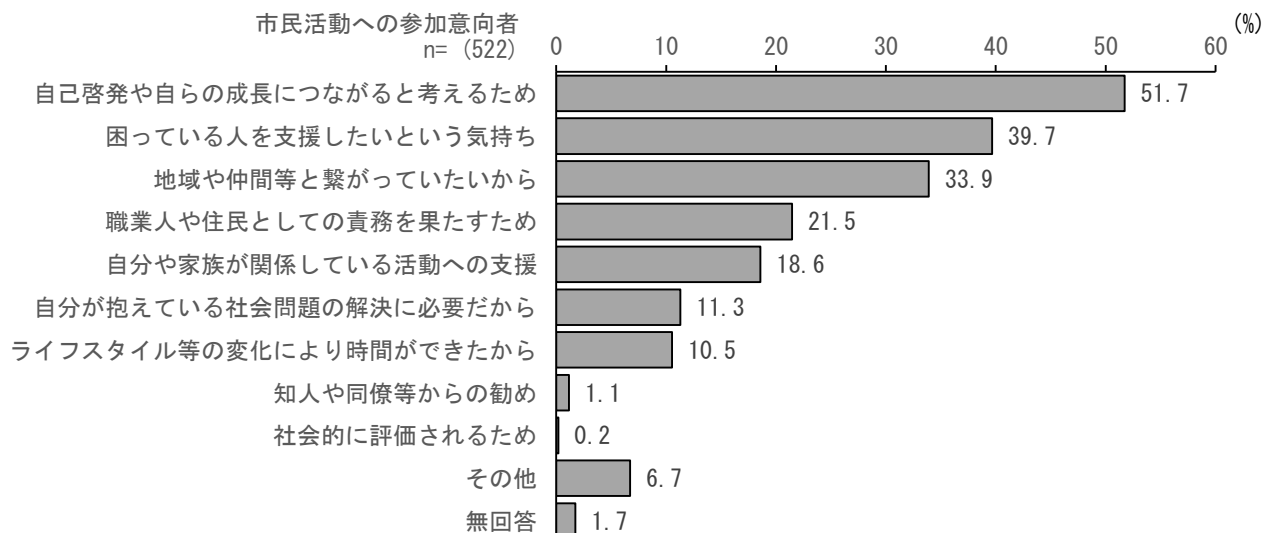
参加したい市民活動の分野

参加したい市民活動については、「自然・環境保全」が44.6%と最も高く、次いで、「芸術・文化・スポーツ」(43.5%)、「子ども・青少年育成」(37.2%)、「まちづくり・まちおこし」(34.1%)、「保健・医療・福祉」(28.0%)の順となっています。



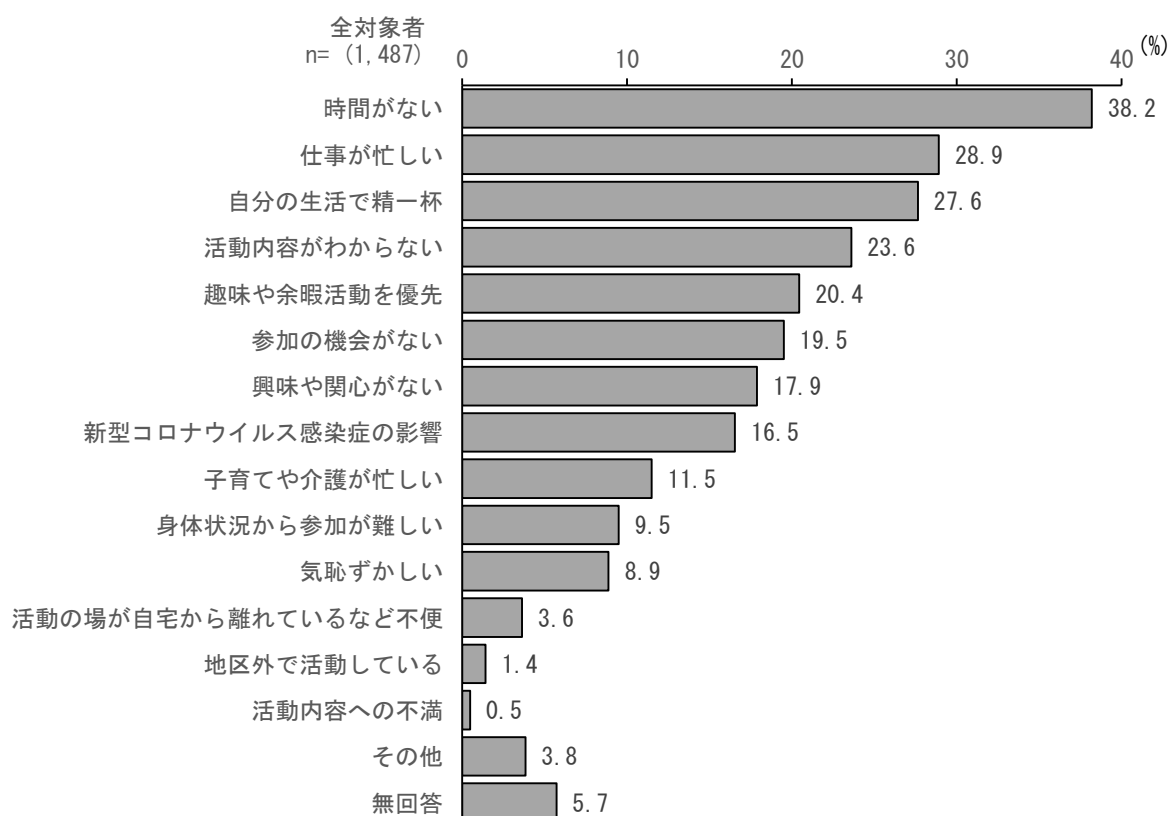
市民活動に参加する理由

市民活動に参加する理由については、「自己啓発や自らの成長につながるため」が51.7%と最も高く、次いで「困っている人を支援したいという気持ち」(39.7%)、「地域や仲間等と繋がりたいから」(33.9%)、「職業人や住民としての責務を果たすため」(21.5%)、「自分や家族が関係している活動への支援」(18.6%)の順となっています。



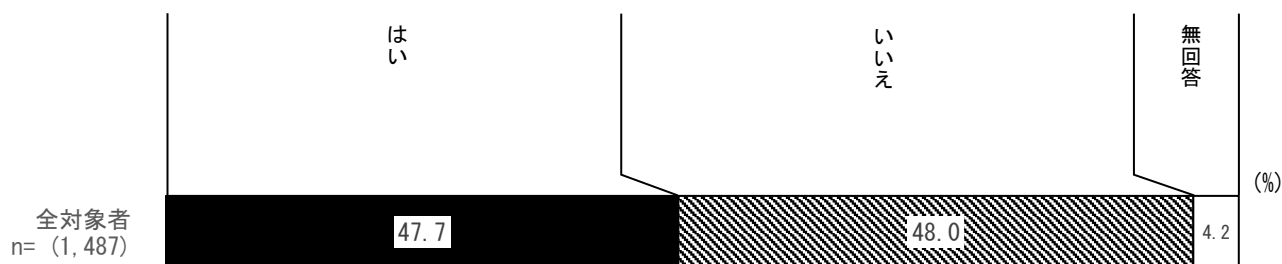
市民活動に参加することに妨げとなること

市民活動に参加することに妨げとなることについては、「時間がない」が38.2%と最も高く、次いで、「仕事が忙しい」(28.9%)、「自分の生活で精一杯」(27.6%)、「活動内容がわからない」(23.6%)、「趣味や余暇活動を優先」(20.4%)の順となっています。



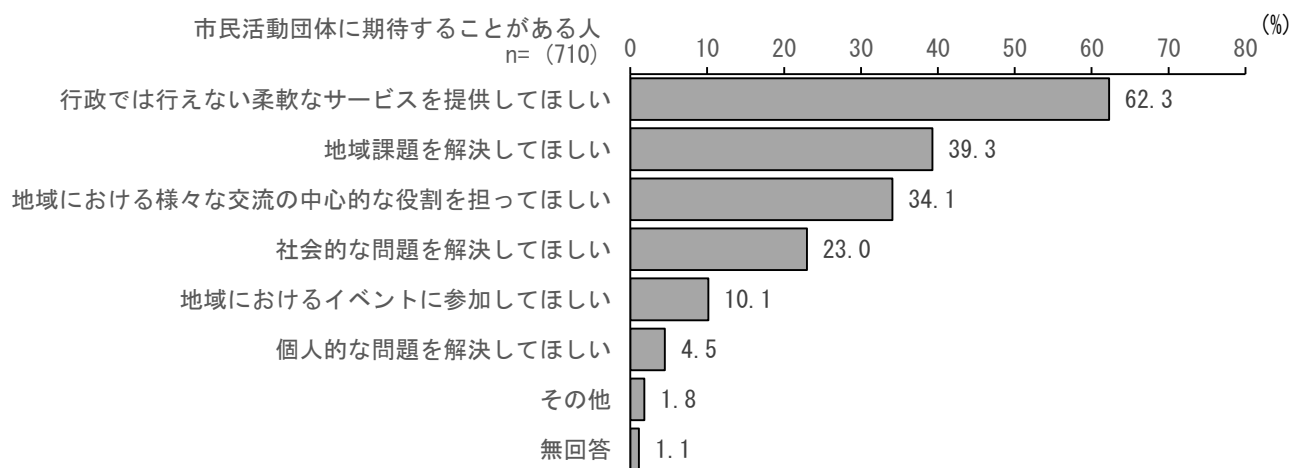
市民活動団体に期待することの有無

市民活動団体に期待することの有無については、「はい」が47.7%、「いいえ」が48.0%となっています。



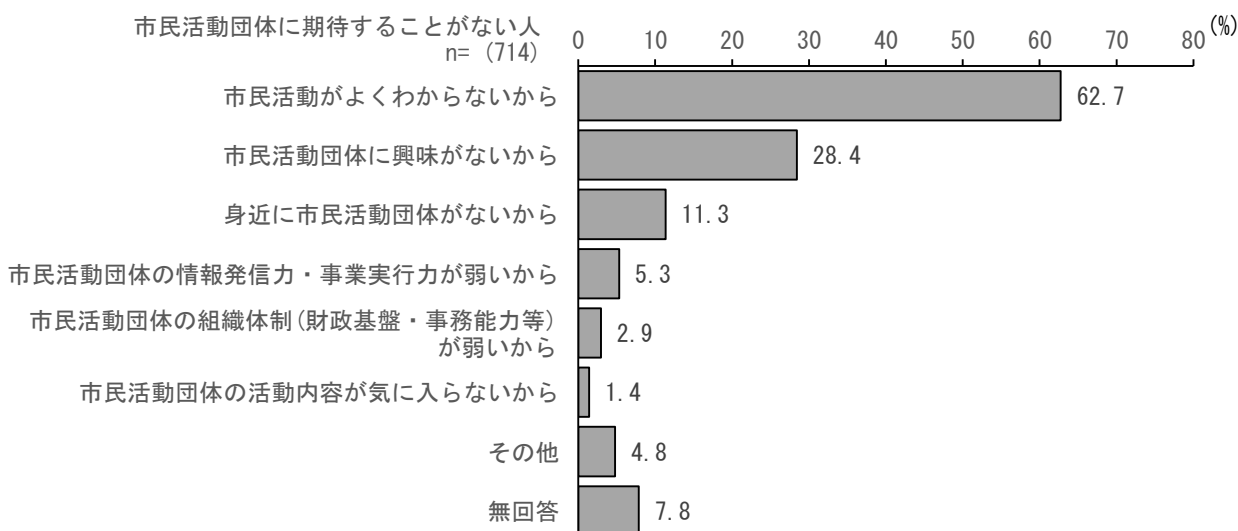
市民活動団体に期待することの内容

市民活動団体に期待することの内容については、「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」が62.3%と最も高く、次いで、「地域課題を解決してほしい」(39.3%)、「地域における様々な交流の中心的な役割を担ってほしい」(34.1%)の順となっています。



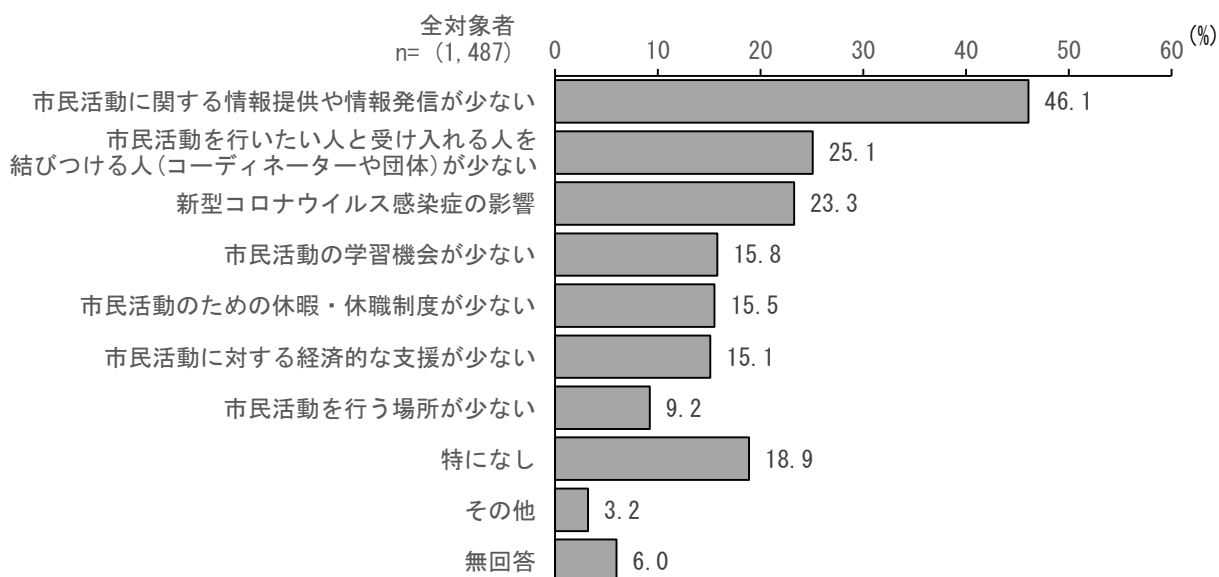
市民活動団体に期待することがない理由

市民活動団体に期待することがない理由については、「市民活動がよくわからないから」が62.7%と最も高く、次いで、「市民活動団体に興味がないから」(28.4%)、「身近に市民活動団体がないから」(11.3%)の順となっています。



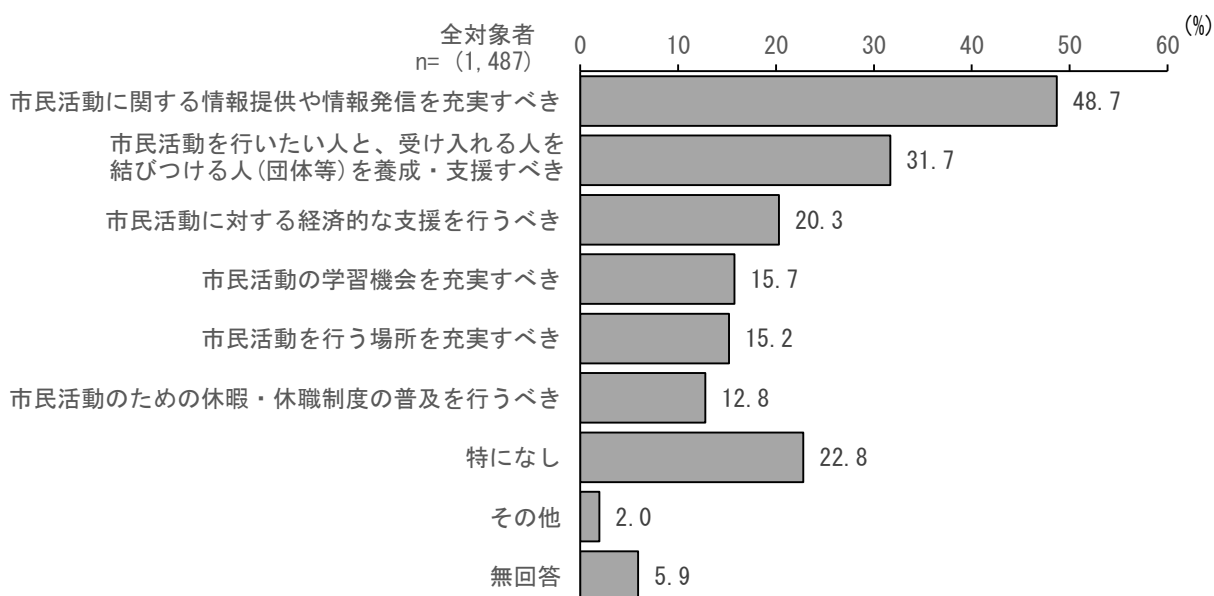
市民活動団体が活動するときには妨げになると思うこと

市民活動団体が活動するときには妨げになると思うことについては、「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」が46.1%と最も高く、次いで、「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人（コーディネーターや団体）が少ない」（25.1%）、「新型コロナウイルス感染症の影響」（23.3%）の順となっています。



市民活動について市に望むこと

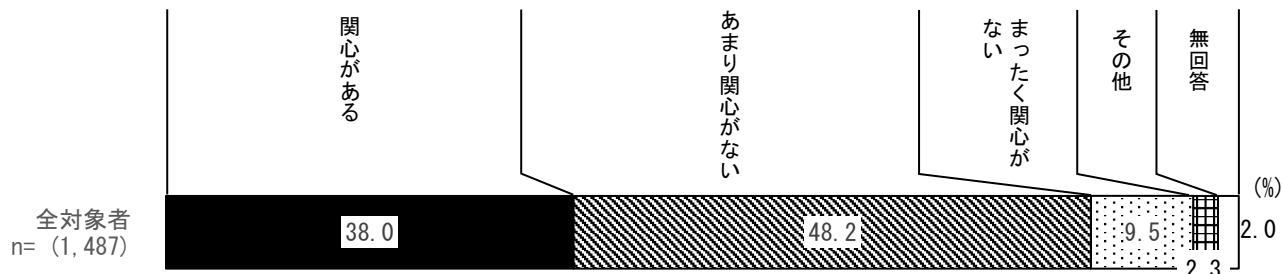
市民活動について市に望むこととしては、「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が48.7%と最も高く、次いで、「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人（団体等）を養成・支援すべき」（31.7%）、「市民活動に対する経済的な支援を行うべき」（20.3%）の順となっています。



3 ボランティア活動について

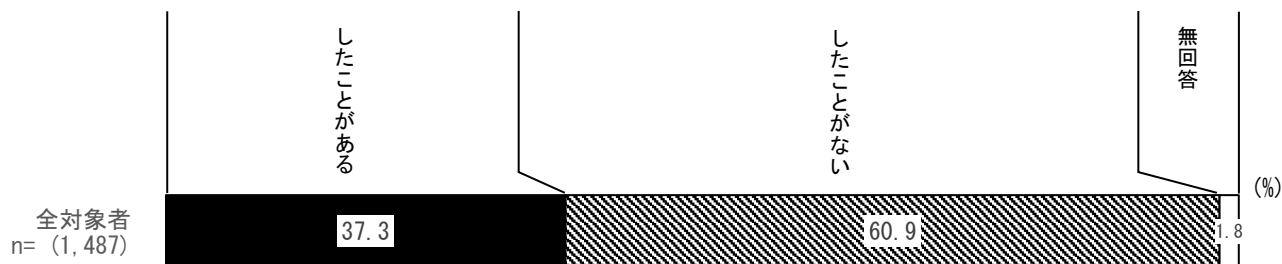
ボランティア活動への関心の有無

ボランティア活動への関心については、「関心がある」が38.0%、「あまり関心がない」が48.2%、「まったく関心がない」が9.5%となっています。



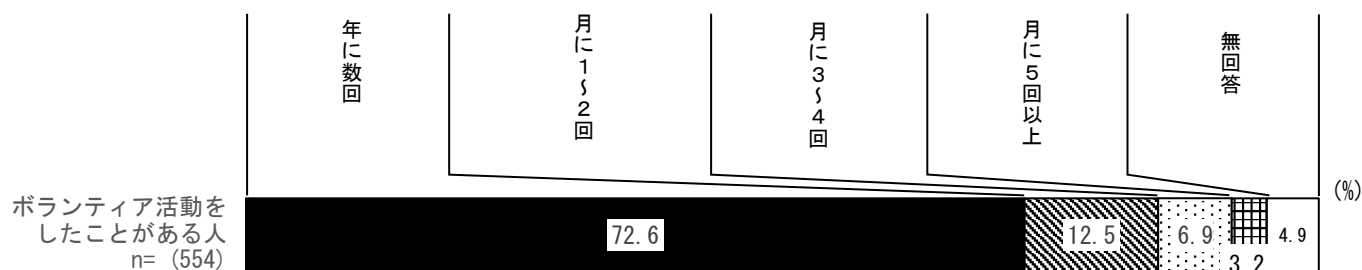
ボランティア活動の経験の有無

ボランティア活動の経験については、「したことがある」が37.3%、「したことがない」が60.9%となっています。



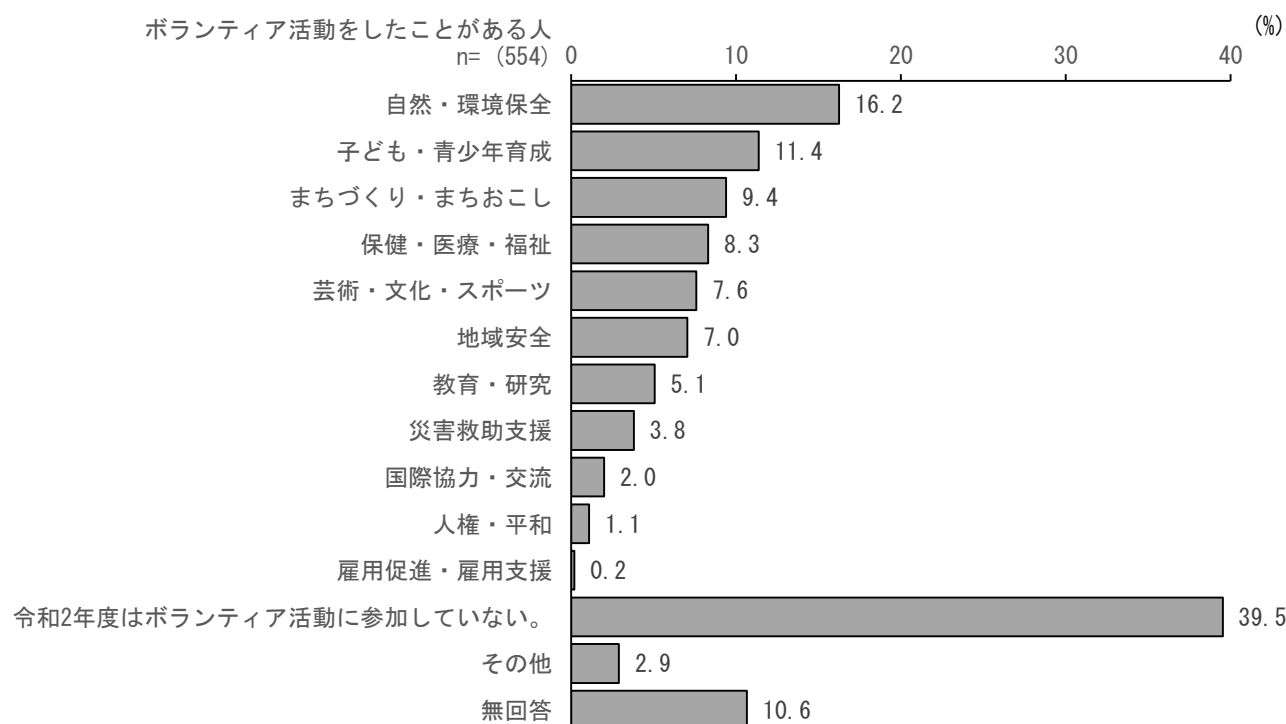
ボランティア活動への参加の頻度

ボランティア活動への参加の頻度については、「年に数回」が72.6%と最も高く、「月に1~2回」が12.5%、「月に3~4回」が6.9%、「月に5回以上」が3.2%となっています。



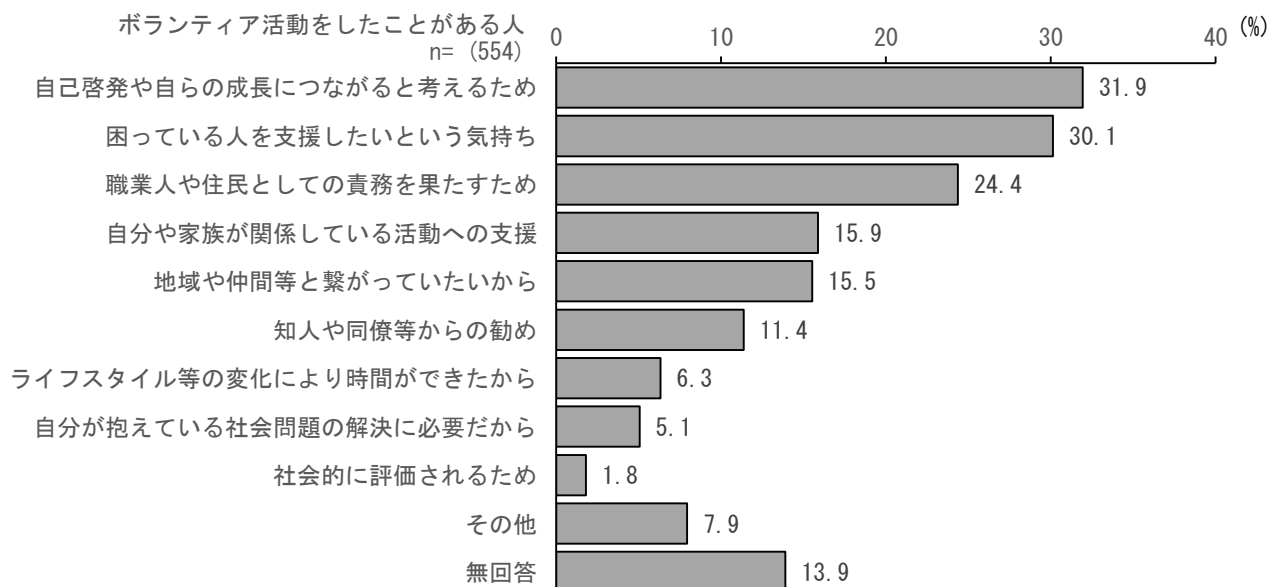
令和2年度中に参加したことがあるボランティア活動

令和2年度中に参加したことがあるボランティア活動については、「自然・環境保全」が16.2%と最も高く、次いで、「子ども・青少年育成」(11.4%)、「まちづくり・まちおこし」(9.4%)、「保健・医療・福祉」(8.3%)、「芸術・文化・スポーツ」(7.6%)の順となっています。なお、「令和2年度はボランティア活動に参加していない」人は39.5%となっています。



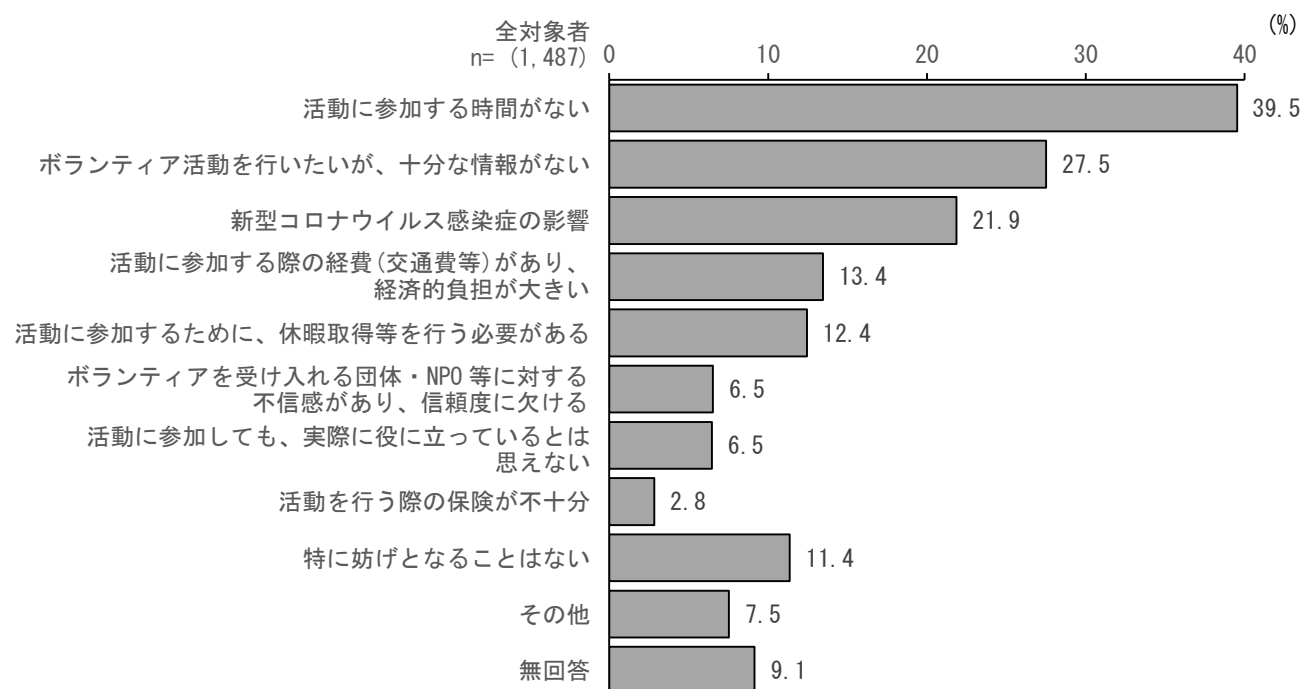
ボランティア活動に参加する理由

ボランティア活動に参加する理由については、「自己啓発や自らの成長につながるため」が31.9%と最も高く、次いで、「困っている人を支援したいという気持ち」(30.1%)、「職業人や住民としての責務を果たすため」(24.4%)の順となっています。



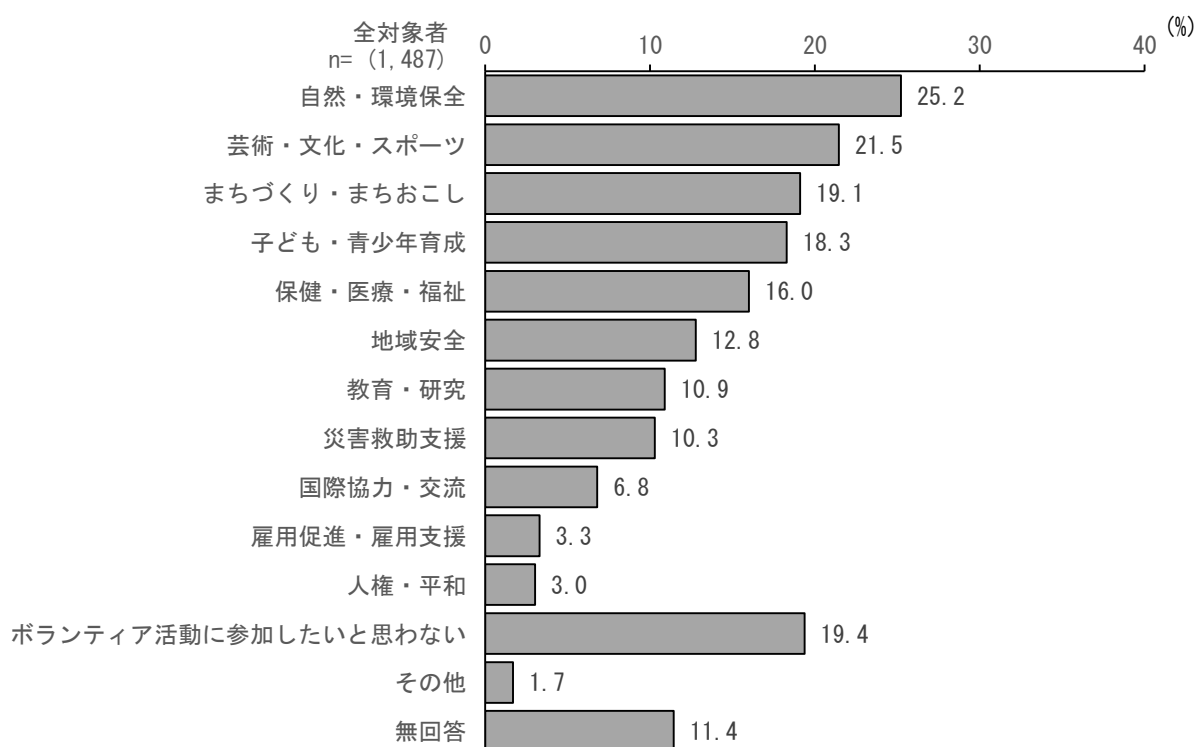
ボランティア活動に参加することに妨げとなること

ボランティア活動に参加することに妨げとなることについては、「活動に参加する時間がない」が39.5%と最も高く、次いで、「ボランティア活動を行いたいが、十分な情報がない」(27.5%)、「新型コロナウイルス感染症の影響」(21.9%)の順となっています。



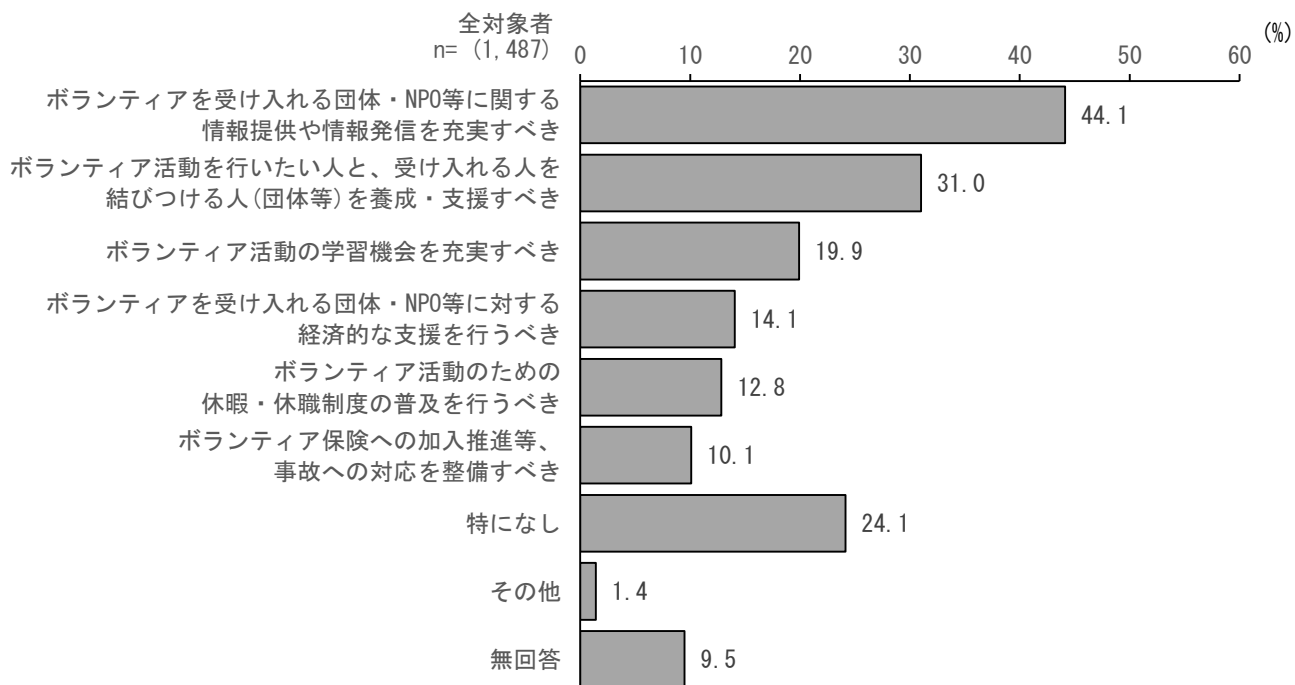
今後参加したいボランティア活動の分野

今後参加したいボランティア活動については、「自然・環境保全」が25.2%と最も高く、次いで「芸術・文化・スポーツ」(21.5%)、「まちづくり・まちおこし」(19.1%)、「子ども・青少年育成」(18.3%)、「保健・医療・福祉」(16.0%)の順となっています。



ボランティア活動について市に望むこと

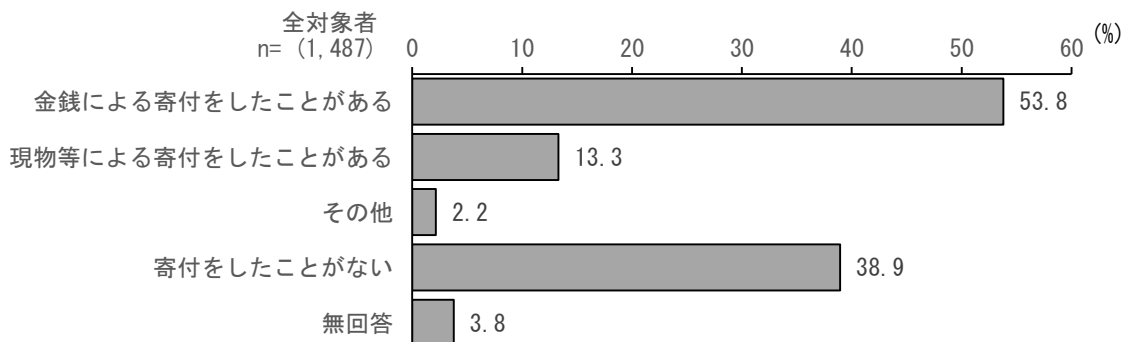
市民活動について市に望むこととしては、「ボランティアを受け入れる団体・NPO等に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が44.1%と最も高く、次いで、「ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人（団体等）を養成・支援すべき」（31.0%）、「ボランティア活動の学習機会を充実すべき」（19.9%）の順となっています。



4 寄付について

寄付経験の有無

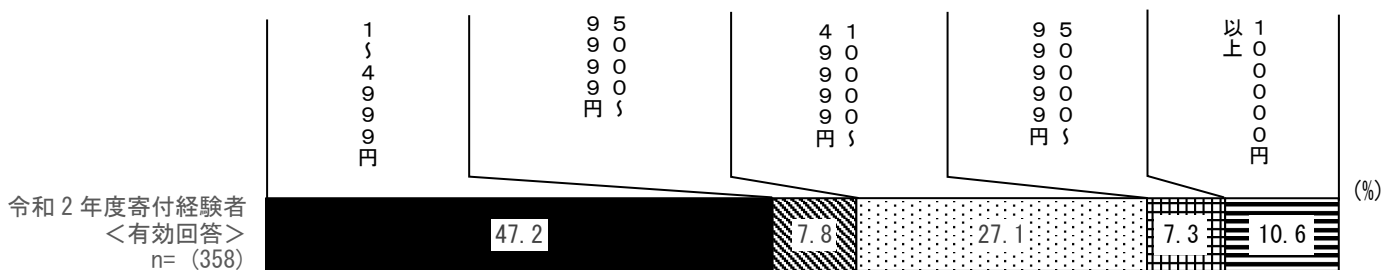
寄付経験については、「金銭による寄付をしたことがある」が53.8%、「現物等による寄付をしたことがある」が13.3%である一方、「寄付をしたことがない」人は38.9%となっています。



令和2年度に寄付した金額・回数、現物等を寄付した回数

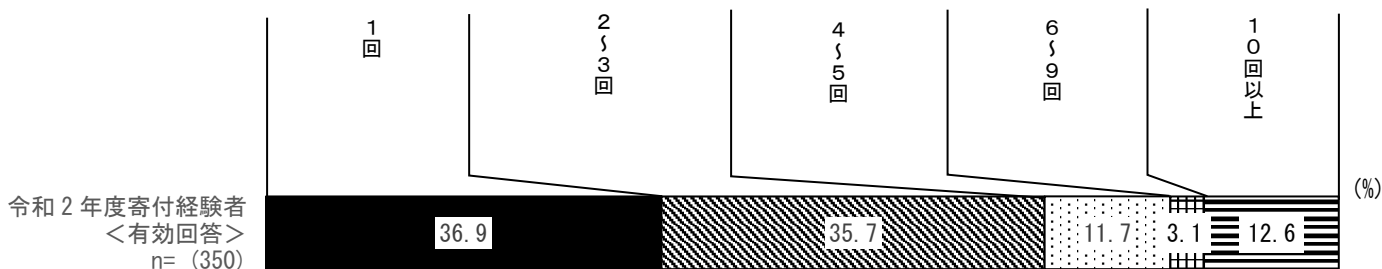
<年間寄付金額（個人）>

年間の寄付金額は、「1～4,999円」が47.2%と最も高く、次いで「10,000～49,999円」(27.1%)、「100,000円以上」(10.6%)、「5,000～9,999円」(7.8%)、「50,000～99,999円」(7.3%)となっています。なお、寄付額の平均は32,176円となっています。



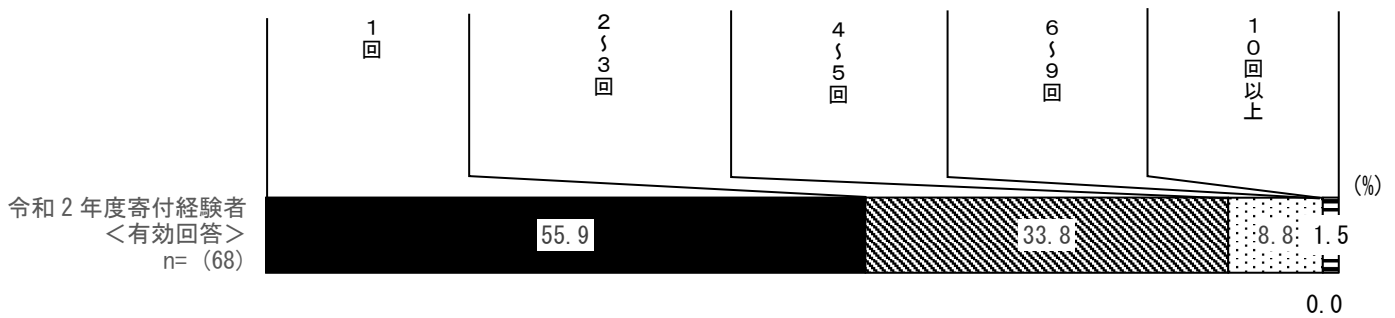
<年間金銭寄付回数>

年間金銭寄付回数については、「1回」が36.9%と最も高く、次いで「2～3回」(35.7%)、「10回以上」(12.6%)、「4～5回」(11.7%)、「6～9回」(3.1%)となっています。なお、寄付回数の平均は3.5回となっています。



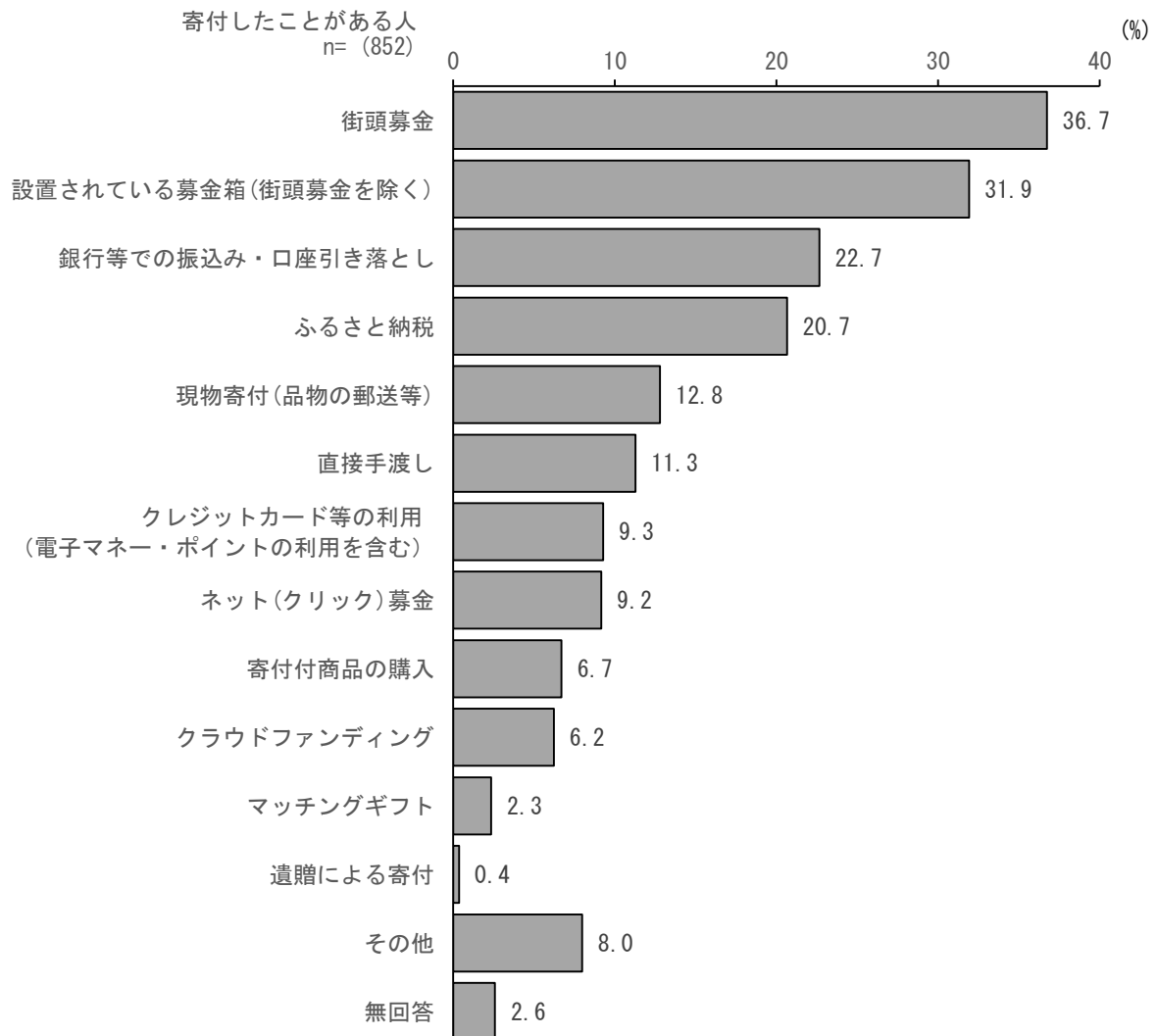
＜年間現物等寄付回数＞

年間現物等寄付回数については、「1回」が55.9%と最も高く、次いで「2～3回」(33.8%)、「4～5回」(8.8%)、「10回以上」(1.5%)、「6～9回」(0.0%)となっています。



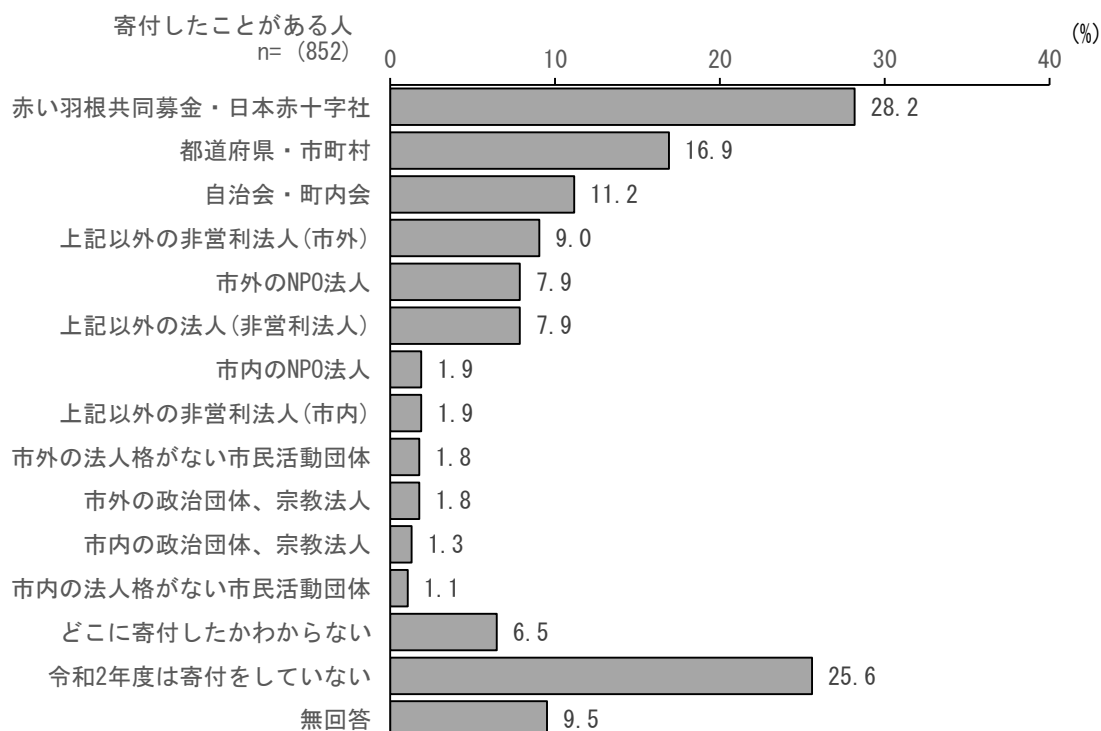
寄付を行った方法

寄付を行った方法については、「街頭募金」が36.7%と最も高く、次いで、「設置されている募金箱（街頭募金を除く）」(31.9%)、「銀行等での振込み・口座引き落とし」(22.7%)の順となっています。



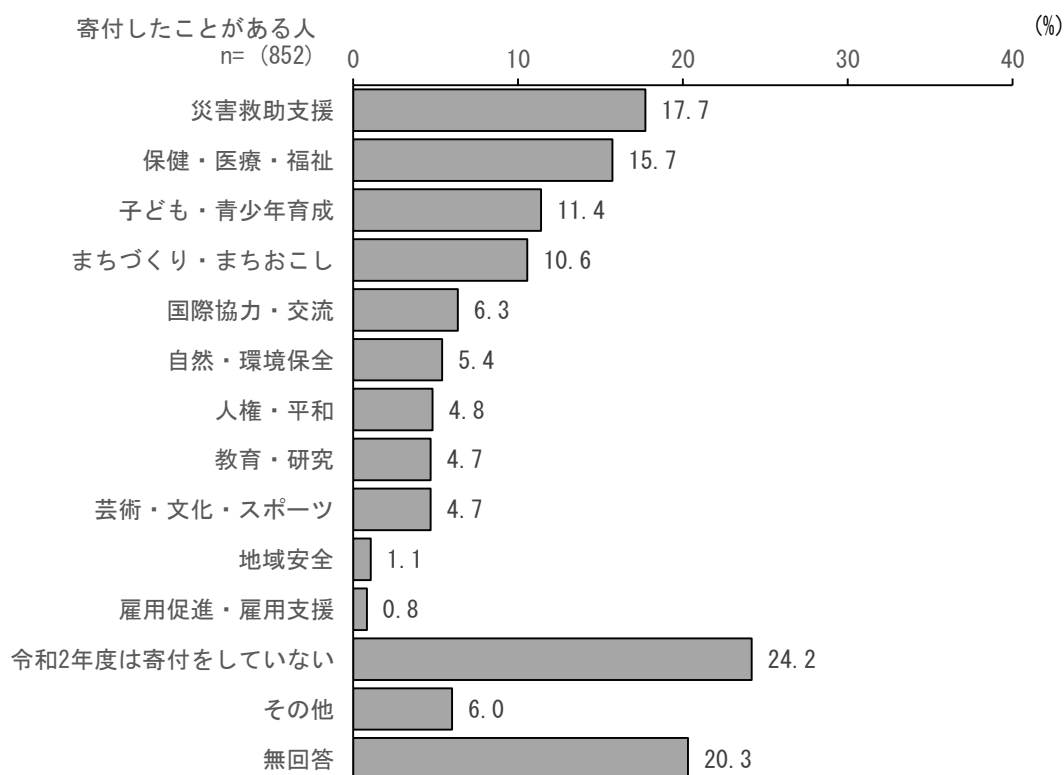
令和2年度に寄付をした団体

令和2年度に寄付をした団体については、「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」が28.2%と最も高く、次いで、「都道府県・市町村」(16.9%)、「自治会・町内会」(11.2%)の順となっています。



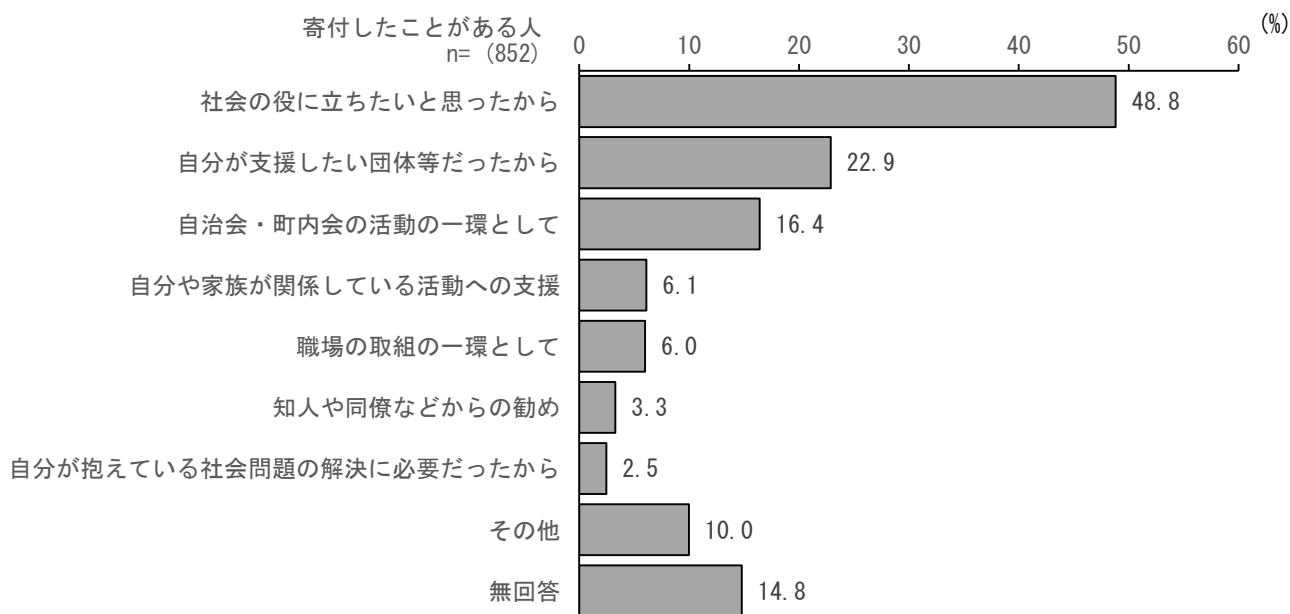
令和2年度に寄付をした分野

令和2年度に寄付をした分野については、「災害救助支援」が17.7%と最も高く、次いで、「保健・医療・福祉」(15.7%)、「子ども・青少年育成」(11.4%)、「まちづくり・まちおこし」(10.6%)の順となっています。



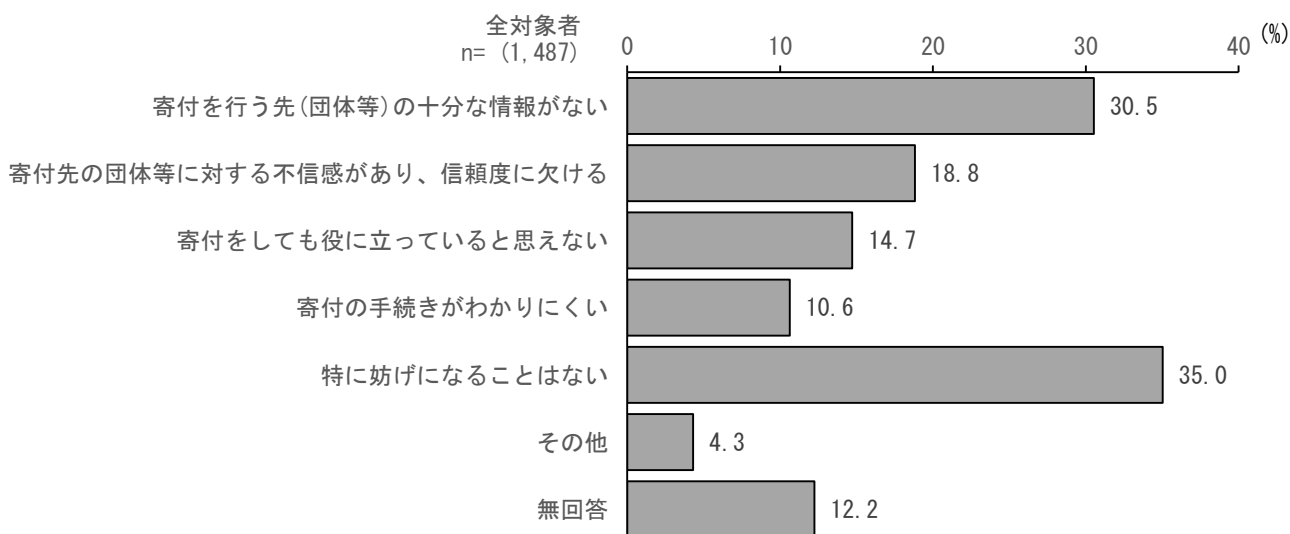
寄付をした理由

寄付をした理由については、「社会の役に立ちたいと思ったから」が48.8%と最も高く、次いで、「自分が支援したい団体等だったから」(22.9%)、「自治会・町内会の活動の一環として」(16.4%)の順となっています。



寄付をするにあたり妨げとなること

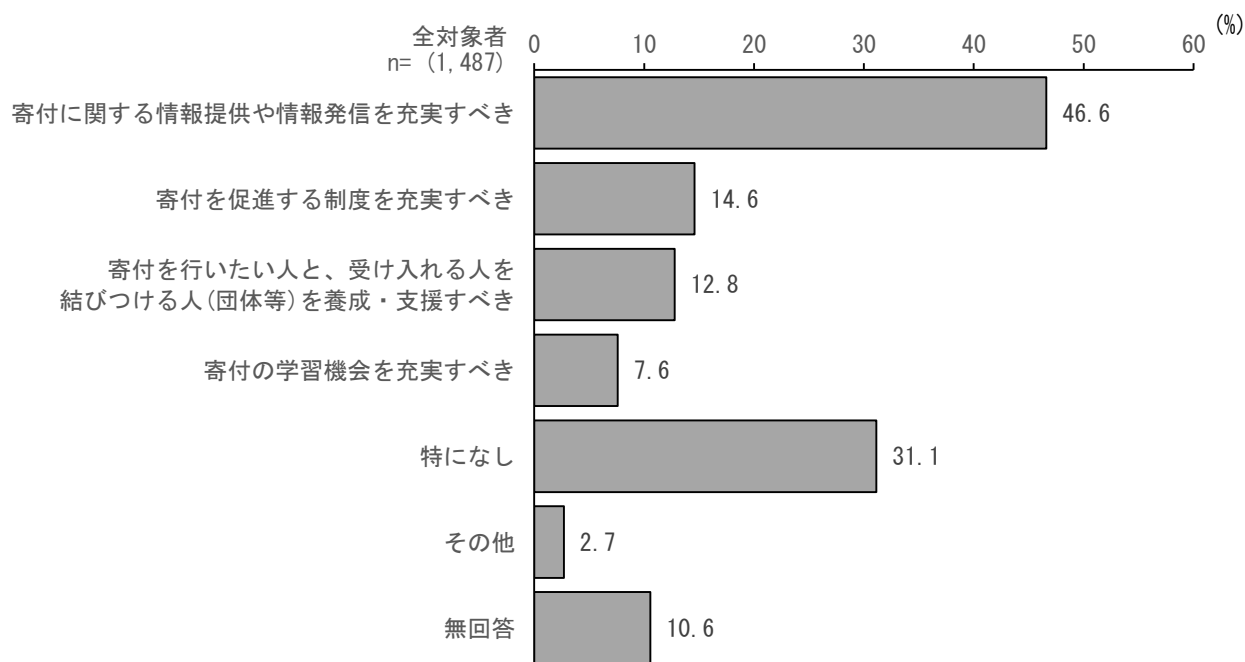
寄付をするにあたり妨げとなることについては、「寄付を行う先(団体等)の十分な情報がない」が30.5%、次いで「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」(18.8%)、「寄付をしても役に立っていないと思えない」(14.7%)、「寄付の手続きがわかりにくい」(10.6%)の順となっています。なお、「特に妨げになることはない」と回答した人は35.0%となっています。



寄付促進のため市に望むこと

寄付促進のため市に望むことについては、「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が46.6%と最も高く、次いで「寄付を促進する制度を充実すべき」(14.6%)、「寄付を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人(団体等)を養成・支援すべき」(12.8%)、「寄付の学習機会を充実すべき」(7.6%)の順となっています。

なお、「特になし」と回答した人は31.1%となっています。

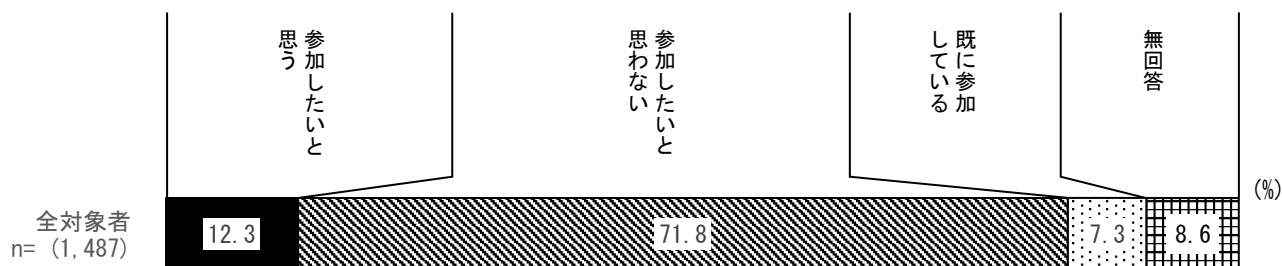


5 その他

新型コロナウイルス感染症をきっかけとした地域・市民活動等への参加意向

新型コロナウイルス感染症をきっかけとした地域・市民活動等への参加意向については、「参加したいと思う」が12.3%、「参加したいと思わない」が71.8%となっています。

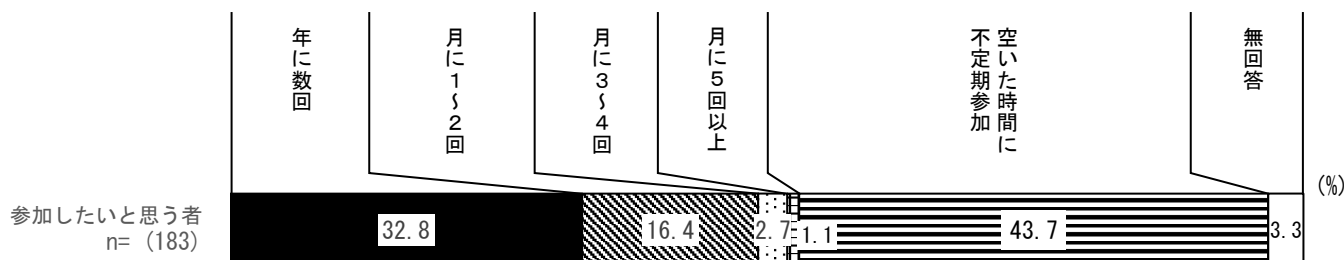
なお、新型コロナウイルス感染症の影響に関わらず「既に参加している」と回答した人は7.3%となっています。



<参加頻度について>

新型コロナウイルス感染症をきっかけに、どのくらいの頻度で地域・市民活動に参加したいと思うかについては、「月1～2回」が16.4%、「月に3～4回」が2.7%、「月に5回以上」が1.1%となりました。

なお、「年に数回」と回答した人は32.8%、「空いた時間に不定期参加」と回答した人は43.7%となりました。



藤沢市
市民活動に関するアンケート調査
報告書（概要版）

発行日／令和4年1月

発行／藤沢市市民自治部市民自治推進課

〒251-8601 神奈川県藤沢市朝日町1-1

TEL 0466-25-1111（代表）

FAX 0466-50-8407